

本日のテーマ「あっ！と驚く本」

実施日：2023年7月16日

1 「氷菓」

米澤穂信／著 2001年 角川書店 【YSNヨ】

33年前の文化祭にまつわる謎と、少年少女が解き明かす青春ありのミステリー。金建をにぎるのは古典部の文集「氷菓」タイトルにもなっている。この言葉に込められた意味とは…？



2 「イニシエーション・ラブ」

乾くるみ／著 2007年 文藝春秋 【SNイ】

学生時代の恋人と遠距離になり浮気して…というバタな展開の恋愛小説なのです。何が面白いのかさっぱりわからんと思いつつ、がんばって最後まで読みました。ラスト2行で「あっ!!」となり、2度読み必至です。



3 「小説の小説」

似鳥鶏／著 2022年 KADOKAWA 【N二】

本文ではなく、1ページを読ませる小説、全文引用してきた小説、よくこんな書いたなあと驚かされるなあが、「あっ！カバー裏にもお話が！」図書館員としては、「これ、とやがてコピーグしたらいいんだ…」と頭をかえた本でもあつた。



4 「アルフレートの時計台」

斉藤洋／著 森田みちよ／画 2011年 偕成社 【Nサイ】

よくあるタイムスリップものかと思いきや、少年アルフレートが賢すぎて大人でも驚かされてしまいます。ラストの手紙で真実が明らかにな来時がもう美しく切ない友情に胸を打たれる物語です。



6 「大名行列」

シゲリカツヒコ／作 2018年 小学館 【Eダ】

大名行列の様子を描いた絵本かと思いきや、ページをめくるとおかしなことになるようです。

7 「ウエスト・ウイング」

エドワード・ゴリー／著 2002年 河出書房新社 【726.5】

文字が一切無い大人向け絵本です。読む人によって、見え方が変わってくるのも面白いです。

8 「金魚ノ歌」

深堀隆介／作 2016年 河出書房新社 【723.1】

2017年の「夏の本」でも紹介しましたが、何度見ても驚かされます。この絵、なんですよ!!

9 「凄い！ジオラマ」

情景師アラキー／著 2015年 アスペクト 【507.9】

「MOZU超絶精密ジオラマワーク」

MOZU／著 2017年 玄光社 【507.9】

どちらもSNSで知った作家さんです。手が写っていないと、どちらがジオラマか本当にわからないうです。よくこんなめづかしいな…と感心しきりです。



10 「ワンダーガーデン」

クリスティヤーナ・S.ウィリアムズ、

ジェニー・ブルーム／文

2016年 汐文社 【G462】

世界の集園や、生き物の生態について紹介した本ですが、表紙の華やかさ、なかみの色鮮やかさに驚く本でした。



11 「科学探偵 VS. 魔界の都市伝説」 科学探偵謎野真実シリーズ3

佐東みどり 他／作 2018年 朝日新聞出版 【Nカガ】

少しおかしなミステルがおこるけど、それは怪奇現象じゃなく、科学の力で解決できるのがおもしろい。分かりやすく、説明が絵で書かれているのがいいです。

利用者さんからのオススメ!